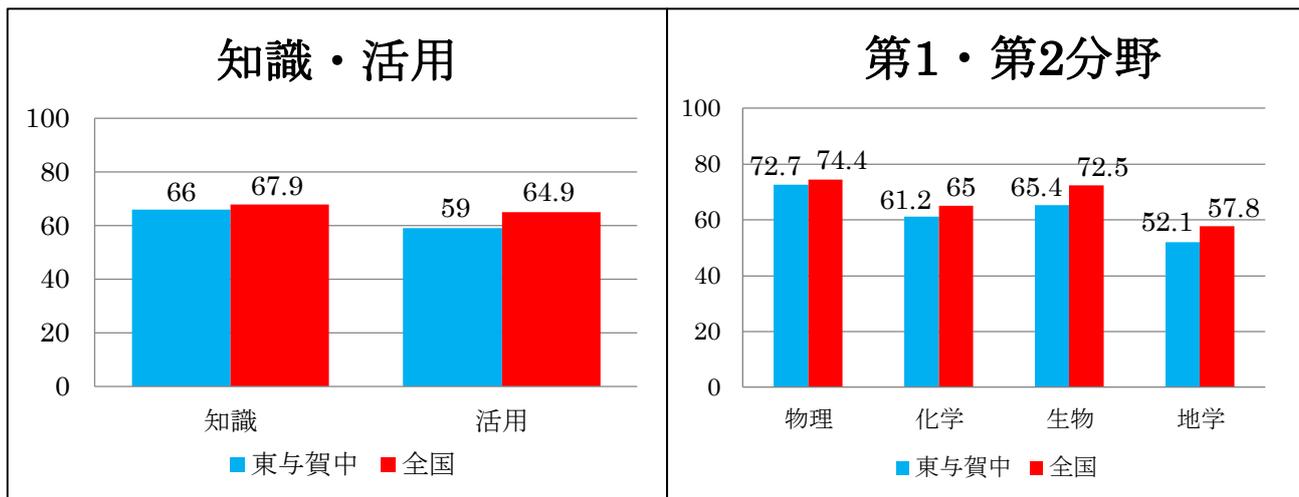


2 理科

(1) 結果

学習指導要領の領域等の全国正答率との比較



枠組み別の結果で、知識、活用とも全国正答率を下回っている。また、分野別にみても、4領域とも全国正答率を下回る結果になっている。特に、枠組み別では活用の項目が、分野別では、生物、地学の2領域で5ポイント以上下回っている。さらに、問題形式においては、短答式、記述式における無解答率の割合が全国を上回った項目が多い傾向が見られる。

(2) 各分野・領域における成果と課題

物理

・物理は、全国正答率を下回っていたものの、その差はわずかで、オームの法則を使って抵抗値を読み取る設問では、全国正答率を5ポイント以上上回るものも見られた。一方で、実験結果の表より正しい値を読み取ったり、電気器具のはたらきと電力の関係を正しく指摘したりすることができていない。今後は、実験結果から何がいえるのかや、それらを文章で正しく表現する技能を定着させる必要がある。

化学

・化学は、約4ポイント全国正答率を下回っていた。特に、ガスバーナーの空気の量を調節する場所を指摘する設問や、原子や分子を粒のモデルを用いて、見られた化学変化を適切な表現で示すことができていない。日頃の実験・観察時の活動において、学習内容の正しい理解に導いていく必要性を感じる。

生物

・生物は、全国正答率を7ポイント以上下回っていた。知識、活用とも授業時の授業内容の定着が図られておらず、1・2年次の復習に力を入れていく必要性が感じられる。

地学

・地学は、全国正答率を5ポイント以上下回っていた。基本的な知識に関する内容を正しく理解できていない設問も見られ、問題によって全国正答率との差があった。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 授業では、電子黒板を活用し視覚的に捉えさせることで、生徒にわかりやすく説明するようにしています。また、グループ学習では、実験や観察結果からいえることなどを短文で表現させる機会を増やすことで、正しい理解に導くとともに、表現に対する苦手意識を払拭させるようにします。
- 単元によって小テストを実施し、理解度に応じた補充学習を行うことで、理解度を上げていく活動を仕組んでいきます。
- プリントやワークブックなどの課題を細かにチェックすることで、個々のつまづきを早期に見つけられるよう努めていきます。
- 定期テストや実力テストなどの後は答案をできるだけ早く返却し、生徒の振り返り学習ができるように努めていきます。

【家庭では】

予習の仕方

○教科書の次の授業範囲を読み、大切だと思うところにアンダーライン等を引きましょう。実験や観察がある単元の場合は、どのような活動をしていくのかも見ておきましょう。

復習の仕方

- 授業で学習した課題は、その日のうちに必ず復習をし、理科ノートの考察やまとめを解いてみましょう。
- プリントやワークでの学習では、授業でどのような活動をしてまとめていったかを思い出しながらいいてみましょう。解き方がわからないときは教科書やノートを見ながら解きましょう。